

体育系教員養成校における読譜指導に関する研究

A study on instruction in reading music in teacher training related to physical education

三小田 美穂子

Mineko SANKODA

ABSTRACT

Reading music is necessary to play music, and the structure and composition of music can be understood by doing so. Reading music is important not only for musicians but also for music teachers for that reason.

This paper examines the way in which students are taught to ability to read music, Therefore, previous methods of instruction are reviewed, and their effectiveness and issues are identified.

Results yielded the following findings: 1) Music theory, which includes the staff and clefs, rests, beats, scales, and coda, need to be properly understood. 2) Students need to recognize the importance of reading music by playing piano and also by visualizing teaching music in primary school. 3) Rhythmic singing is possible, but materials and methods of instruction need to be developed. 4) Students must read a score repeatedly until it becomes familiar. Students needs to repeatedly read music until they become used to doing so, and student resistance to reading music needs to be diminished.

Key words; reading scores, music theory

I. 研究目的と方法

読譜とは楽譜をリズムと音程を正しく読み取り行為であり、ソルフェージュとも言う。しかし、正しい音程で歌うことは音楽の専門的教育を受けていなければ難しく、ここで望む読譜の能力とは

リズムと階名を正しく読み取ることである。この読譜の能力は演奏する際に必要とされるだけでなく、読譜を通して音楽の構造や仕組みを理解することができるので、演奏家だけでなく音楽教師には必要な力である。

基礎音楽の授業ではピアノの演奏を通して、読

譜の力と音楽の要素や構造について感得することを目的としている。なぜなら西洋音楽において楽譜を読む力と演奏の力は直結しており、ピアノ演奏が苦手な学生の第1の理由は楽譜が読めないことにある。

そこで本研究では、これまでの指導法を見直しを通して、その効果と問題点を探り、体育系養成校の特色を生かした指導の在り方に示唆を得るものである。

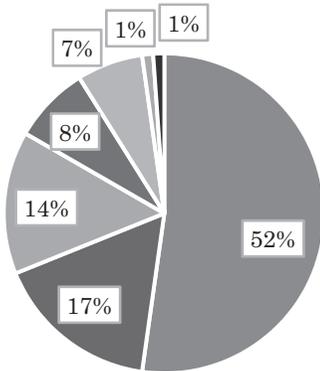
Ⅱ. 現状と指導方法

(1) 現状

読譜ができるためには音楽理論の知識がなければならない。音楽理論とはト音記号とヘ音記号からなる大譜表に書かれた音の音名や階名が分かること、音符・休符の長さを覚えていること、拍子や音階、和音について理解していることなどが含まれる。そこで、大学入学の時点で毎年どの程度の音楽理論の知識があるか事前調査を行っている。

その結果を見ると（グラフ1）全く分からず0点を取った学生が52%で正答率10%未満が17%、正答率20%未満が14%、正答率30%未満が8%と正答率3割を答えることができなかった学生が91

■ 0% ■ 1-9% ■ 10-19% ■ 20-29%
 ■ 30-39% ■ 40-49% ■ 50-



グラフ1 事前テストの正答率

%に達した。昨今、小学校・中学校の音楽の授業で楽譜についての学習は最低限に抑えられており、また、高校で音楽を選択しなかった学生もいることから、この結果は予想されるものであった。そこで、読譜の前に音楽理論についてきちんと理解することが重要だと考え、毎回の授業で段階的に音楽理論について説明することにした。

読譜に関しては、音楽理論の学習と並行して、教材のバイエルを使って練習することにした。

(2) 指導方法

1) 音楽理論

音楽理論は段階に沿って丁寧に説明し、わからない場合や理解できない場合はその場で質問を受け、なるべく全員が確実に理解することを目指した。そのために全体説明の後の個人作業の際、非常勤の先生方と机間巡視を行い、理解度を一人一人チェックした。

大譜表を書き、音名と階名の違いを説明した後、音部記号の意味や音名・階名の起こりなどを話し、単に暗記するのではなく興味を持たせることや音楽の構造について理解することによって学びが浸透するようにした。

また、説明された理論をノートに写した後、必ず鍵盤ハーモニカを使って実際に音を出し、理論としてだけでなく感覚としても理解するようにした。音階や伴奏付けは感覚と理論が合致すれば理解が早く、また、左手の和音伴奏は正しい指使いで何度も練習し、体得することを目指した。

音楽理論指導上の留意点は以下の3つである。

- ①理解を確実にするために教師3人体制で、一人一人の理解度を確認する
- ②単に暗記するのではなく、背景などを説明して興味を持たせる
- ③必ず実践を伴い、体感することを目指す

2) ソルフェージュの指導方法

ソルフェージュは音楽理論の理解が大前提であり、ソルフェージュができない原因が音楽理論で

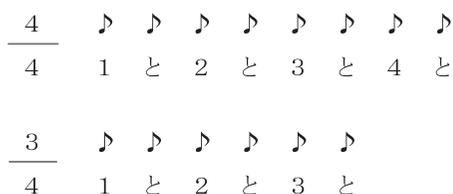


図1

あると考えられた場合は理論の再確認をしながらソルフェージュの指導を行う。ピアノの実技課題を使ってソルフェージュの練習を行うが、最初は全員でリズム打ち・階名唱を行って、ソルフェージュの方法を指導する。その後、各自のピアノ課題曲でソルフェージュを行って合格した者のみ、ピアノ演奏に移ることができるようにした。このようにソルフェージュをピアノを弾く前に行ない、繰り返すことによって慣れることを目指した。

階名を読むことは練習すればできるが、リズムを正しい長さで読むことは音楽理論を理解するだけではできない。そこで、音符に言葉を当てはめるリズム唱の方法を考えた。

4分の4拍子の場合、1小節の中に入るのは4分音符が4つである。4分音符を8分音符に分解して、図1のように拍子に沿った言葉を当てはめる。4分音符・休符は1との間、音を出すか休むこととなり、付点4分音符・休符は1と2の間、音を出すか休むこととなる。

ソルフェージュ指導の留意点は次の3つとなる。

- ①音楽理論の理解を徹底する
- ②繰り返し行い、慣れるようにする
- ③リズム唱などの有効な方法を利用する

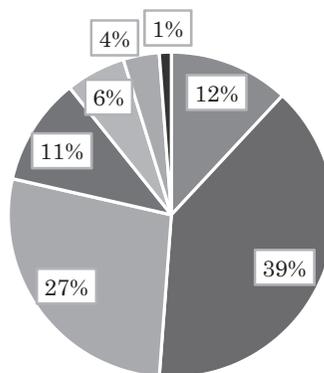
(3) 結 果

音楽理論に関しては7月に行った期末試験の結果で考察することができる。期末試験は事前テストと同様の音符・休符の長さ、音名・階名、音階、和音に関する問題が出される。その結果、グラフ2のように正答率100%つまり100点が12%、90

%以上の正答率のものが39%、80%以上の正答率のものが27%となり、80%以上の正答率のものが78%を占めるという結果となった。

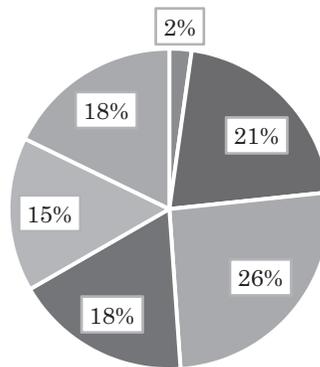
次に事前テストと期末テストの変化を見てみたい(グラフ3)。差が100ということとは事前テストで0点だったが、期末テストでは100点を取ったということである。差が90~99であるのが21%、差が80~89であるのが26%であり、50%近くが急激な変化を見せている。ただ、もともと音楽理論が分かっており、事前テストの点数がよかった者は差が少なくなるので、次に事前テストで0点を取った者の変化を見てみたい(グラフ4)。

- 100%
- 90%代
- 80%代
- 70%代
- 60%代
- 50%代
- 40%代



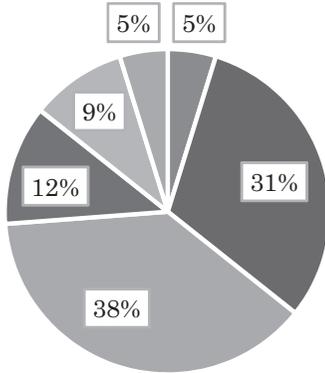
グラフ2 期末テストの正答率

- 差100
- 90-99
- 80-89
- 70-79
- 60-69
- それ以下



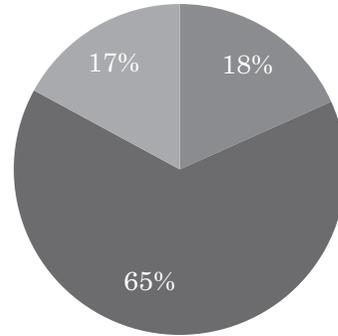
グラフ3 事前テストと期末テストの正答率の差

■ 差100 ■ 90-99 ■ 80-89
 ■ 70-79 ■ 60-69 ■ それ以下



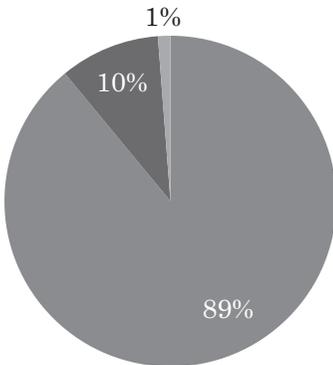
グラフ4 事前テスト0点だった学生の正答率の差

■ A 評価 ■ B 評価 ■ C 評価



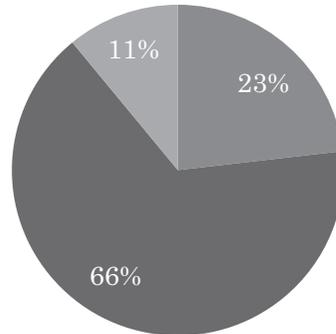
グラフ6 ト音記号ソルフェージュ 評価

■ A 評価 ■ B 評価 ■ C 評価



グラフ5 リズム唱評価

■ A 評価 ■ B 評価 ■ C 評価



グラフ7 ヘ音記号ソルフェージュ 評価

すると、100の差があった者が5%であり、90～99の差があった者が31%、80～89の差があった者が38%であり、実に70%以上が80以上の差があったことがわかる。

これらの結果より、学生が音楽理論の基礎的な事項の理解に関して急激に変化したことが分かり、段階的で実践を伴った指導の効果がみられたことになる。

次にソルフェージュテストの結果について見てみたい(グラフ5)。リズム打ちはABCの3段階で評価した。

Aは一定の速さで正しくリズムを叩くことができ

る

Bは数か所間違えるがリズムの叩き方については理解している

C全くできない

A評価は89%でほとんどの学生がリズム唱の方法を使って正しくリズム打ちができるようになったことがわかる。

ソルフェージュも3段階で評価した。

A階名もリズムも正しく歌うことができる

B階名は正しいがリズムが間違っている

C階名もリズムも間違っている、

A評価は18%で階名もリズムも正しく歌うこ

とができたのは20%にも満たなかった。リズム打ちだけでは89%に達していたが、階名も一緒に歌うことになるとできない学生がほとんどであった。この結果はト音記号のソルフェージュでもヘ音記号のソルフェージュでも一緒であり、ソルフェージュはかなり難しく、方法を理解しても実際にできるようになるためには繰り返し長期的に学習していくことが重要であることが分かった。

Ⅲ. 考 察

事前テストと定期テストの正答率を比較すると明らかに大きな変化がみられ、学習前と学習後で正答率に80以上の差があった学生は50%に達した。ソルフェージュはリズム唱の方法を習得することによって、90%近くの学生が正しくリズムを叩くことができた。ただ、階名を伴ったソルフェージュでは階名は正しく歌うことできるがリズムも正しく歌うことのできる学生は少なく、リズム打ちはできてソルフェージュではまだ応用できていない。もっと時間をかけて繰り返し練習し、慣れていくことが必要であると感じた。

これらの結果から指導方法に対して次の4点の示唆を得ることができた。

- ①読譜の基礎となる音符・休符、大譜表、拍子、音階、和音楽理土の音楽理論をきちんと理解させること。
- ②読譜の重要性についてピアノの実践だけでなく、音楽の授業の指導場面を想定して実感させること
- ③リズム唱などの方法は効果的であり、このような教材の開発も必要である。
- ④演奏の前に必ず読譜を行うなど、繰り返して慣れるようにする。

特に体育系教員養成においては繰り返し読譜を行い、読譜に対する抵抗をなくすことが重要である。

Ⅳ. お わ り に

この研究を通して読譜の指導に関する授業を見直すと同時に改善点などの示唆を得ることができた。1年間の授業を通して読譜の方法は理解できたようだが、実際に演奏に応用できている学生は少なく、ピアノ演奏の上達の程度に影響を与えていると言える。そこで、これからより効果的な読譜の指導方法について研究を続けていきたいと考えている。

表1 指導計画

時間目	内容	詳細、留意点
1	音楽理論 大譜表 音名・階名	ト音記号を書く ハ長調の音階を書く 音階に音名を記入する 音階に階名を記入する ト音記号の意味を知る なぜ階名ラの音が音名イになるのかを知る ヘ音記号を書く 音階に音名を記入する 音階に階名を記入する ヘ音記号の意味を知る

	<p>音符・休符</p> <p>ソルフェージュ</p> <p>課題</p>	<p>音符と休符の呼び方と長さを説明する 全音符・2分音符・4分音符　・8分音符 4拍　2拍　1拍とする　2分の1拍 全休符・2分休符・4分休符・8分休符 4拍　2拍　1拍とする　2分の1拍 長さと呼び方が反比例する理由も説明する</p> <p>バイエル 44番 全員で拍子を取りながら階名唱をする これがソルフェージュであることを伝え、演奏する際にまずソルフェージュを行うことが重要であると告げる</p> <p>音名と階名</p>
2	<p>音楽理論 拍子</p> <p>ソルフェージュ</p> <p>課題</p>	<p>拍子記号について説明する 4分の4拍子　4分は4分音符をさし、4は4分音符が1小節の中に4入っていることを示す。</p> <p>拍子を意識してリズムを数える方法を説明する</p> <p>4 ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 4 1 と 2 と 3 と 4 と</p> <p>拍子</p>
3	<p>音楽理論 付点音符・休符</p> <p>ソルフェージュ</p> <p>課題</p>	<p>付点の意味を説明する 付点は付点をつけようとしている音符の半分の長さを加えるものである。 付点2分音符の場合は2分音符が2拍なので、その半分の長さ1拍を加えることになり、3拍となる 付点4分音符、付点8分音符を考えて、理解しているかどうか確認する</p> <p>バイエル 48番 前回学習したリズムを数える方法を使用して、付点4分音符のソルフェージュを行う ↓ 右手が付点のリズム、左手は付点のリズムではない場合の両手の動きについて学習する</p> <p>ソルフェージュ課題のリズム読み</p>

<p>4</p>	<p>音楽理論 音階 シャープ・フラット ト</p> <p>ソルフエージュ</p>	<p>ハ長調の音階を書く ハ長調の音階を鍵盤ハーモニカで演奏し、長調の音階の感じをつかむ ト長調の音階を作る トの音から7音と上のトの音まで書き、鍵盤ハーモニカで確認して、シャープまたはフラットをつける シャープとフラットの意味を説明する 長音階の構造を説明する 全(長2度) 全 半(短2度) 全 全 全 半 他の長音階を作成し、理解したかどうかを確認する</p> <p>バイエル 66 番 ヘ音記号のソルフエージュを行う</p>
<p>5</p>	<p>音楽理論 和音</p> <p>ソルフエージュ</p>	<p>伴奏をする際に必要な主要3和音について説明する 和音とは2つ以上の音を一緒に鳴らすことであり、3和音とは3つの音を同時に鳴らすことであると説明する。 ハ長調の主要3和音をト音記号とヘ音記号の楽譜で書く I ドミソ IV ドファラ V シレソ これまで演奏したバイエルの伴奏が主要3和音からできていることを確認する 鍵盤ハーモニカで主要3和音を弾く練習をする 正しい指使いを徹底し、左手が慣れるまで練習するように促す</p> <p>ピアノ課題曲の演奏の前にソルフエージュを行い、合格できてからピアノ演奏のレッスンを行う</p>
<p>6</p>	<p>音楽理論 コードネーム</p>	<p>コードネームとは特定の和音を指し示す記号だということを説明する ギターの演奏者にはなじみ深い記号であるが、ピアノ演奏でも便利であることを告げる。 ハ長調の音階を書き、英語圏の音名を説明する メジャーコードを書き、その構造について気付かせ、CDEFGABのコードを完成させる メジャーコードの構造とは基音と第3音は調度であり、第3音と第5音は短3度である この関係を長短3度の言葉を使わずに見つけさせる 次に同様にマイナーコードの構造を見つけ、コードを完成させる マイナーコードの構造は基音と第3音が短3度であり、第3音と第前回学習した主要3和音をコードネームに直す。 ハ長調 I ドミソ→CIV ドファラ→F V シレソ→G</p>

	伴奏法	1 小節ごとに主要 3 和音の中から当てはめていく方法を説明する 共通教材を使って和音を当てはめていき、演奏してみる
	ソルフェージュ	ピアノ課題曲の演奏の前にソルフェージュを行い、合格できてからピアノ演奏のレッスンを行う
	課題	共通教材への伴奏付け